

COVID-19ワクチンの接種回数と Casirivimab/imdevimab投与後の infusion reactionに関する調査

小林友里[†] 森 伸晃* 神谷 緩子
武内 偲乃 工藤 浩史 谷地 豊

IRYO Vol. 77 No. 3 (198-201) 2023

要 旨

Casirivimab/imdevimab (以下、本剤)は2021年7月19日に日本で特例承認された薬剤であり、Coronavirus disease 2019 (COVID-19)の重症化を抑制するといわれている。本剤投与後のinfusion reactionは0.2%と報告されており、アメリカ合衆国のFood and Drug Administrationは、少なくとも本剤投与後1時間は経過観察することを推奨している。そこで、国立病院機構東京医療センターにおいて2021年9月2日から10月28日までに本剤を使用した患者のinfusion reactionに関して後ろ向きに調査し、ワクチンの接種回数ごとの臨床状態の変化に関して比較した。対象は12例であり、本剤投与後にワクチン未接種者で低酸素血症が1例、ワクチン2回接種者で倦怠感、悪寒、高血圧がそれぞれ1例ずつみられた。

キーワード COVID-19, Casirivimab/imdevimab, infusion reaction

序 文

Casirivimab/imdevimab (本剤)は、Coronavirus disease 2019 (以下、COVID-19)の世界的流行を受け、開発された薬剤である。日本では2021年7月に特例承認されており、COVID-19の重症化を抑制する効果があるといわれている¹⁾。また、本剤使用開始時は重症化リスク因子を有することが条件とされている²⁾。

海外第I/II/III相試験 (COV-2067試験)の第III相パートにおいて、本剤投与中または投与4日目までに発現したグレード2以上のinfusion reactionの発現割合は、Casirivimab 600 mg および imdevi-

mab 600 mg 併用投与群で0.2% (2/827例)との報告²⁾があり、添付文書上においても重大な副作用として位置付けられている。また、医薬品リスク管理計画書では安全性検討事項の重要な特定リスクの区分に分類されている³⁾。infusion reactionとは薬剤投与中もしくは投与開始後24時間以内に現れる過敏症などの症状の総称である。しかし、これらはワクチン未接種者を対象としており、ワクチン接種後の患者におけるinfusion reactionの発現割合については不明である。ワクチン接種が普及し、ワクチンの接種者が増加すると予測された⁴⁾ためワクチン接種歴とinfusion reactionを調査した。独立行政法人国立病院機構東京医療センター (当院)では

国立病院機構東京医療センター 薬剤部 *総合内科・感染症科 †薬剤師

著者連絡先: 小林友里 国立国際医療研究センター国府台病院 薬剤部 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1

e-mail: yuri022275@gmail.com

(2022年6月24日受付, 2023年2月10日受理)

Number of COVID-19 Vaccine Inoculations and the Investigation of the Infusion Reaction Following Administration of Casirivimab and Imdevimab

Yuri Kobayashi, Nobuaki Mori*, Hiroko Kamiya, Shino Takeuchi, Hiroshi Kudo and Yutaka Yachi, Department of Pharmacy, *Department of General Internal Medicine・Infectious Disease, NHO Tokyo Medical Center

(Received Jun. 24, 2022, Accepted Feb. 10, 2023)

Key Words: COVID-19, Casirivimab/imdevimab, infusion reaction